

後ろ向き観察研究

患者さんへの情報公開文書（ホームページ用周知文書）

研究題名：ステントグラフト内挿術後動脈瘤拡大に対する人工血管置換術の検討

●はじめに

腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術は開腹での人工血管置換術と比較すると短い在院期間、低い死亡率などが報告されている一方で、術後遠隔期に瘤拡大を呈し、更なる治療介入を要することがあります。このようなステントグラフト内挿後の瘤拡大に対する治療法には、血管内治療と開腹手術があります。しかしながら、一般的にステントグラフト内挿術後の患者さんは、複数の併存疾患を持ち、高齢であることが多く、開腹手術はためらわれる場合が多いです。しかしながら、近年、ステントグラフト内挿後の瘤拡大に対して開腹手術を行い、良好な成績であった報告がいくつかあります。このような背景を踏まえ、当院でのステントグラフト内挿術後の動脈瘤拡大症例に対する開腹人工血管置換術の詳細を検討することにいたしました。

●研究対象のご説明

札幌医科大学第二外科及び心臓血管外科で2006年10月1日から2017年12月31日までに、腹部大動脈瘤に対して手術加療を施行致しました、410名の患者さんを対象にしております。

●研究内容と患者さんに日常診療以外の負担や経費が生じないことの説明

当科での入院時及び外来での検査データ（CT画像や血液検査等）を用いて研究を行います。尚、この研究を行うことで、対象の患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

●患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施経過及び、その結果の公表の際には（学会や論文等）、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2006年10月1日から2017年12月31日までの間で、当院で腹部大動脈瘤治療を受けられた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。ただし、あなたからのご連絡を頂いた時点ですでに研究結果が論文等に公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には解析結果からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなりますのでご了承ください。

●利用する情報

カルテ情報（診断名、手術時年齢、性別、既往歴、手術情報、入院期間、術後合併症など）、
CT 検査画像、血液検査値

●研究期間：病院長承認日から平成 30 年 12 月 31 日まで

●医学上の貢献

腹部大動脈瘤の治療に関して、新たな治療法の一助になり、今後の患者さんの治療と健康
に貢献できます。

●問い合わせ先

〒060-8543 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学附属病院 心臓血管外科

研究責任者：心臓血管外科助教 仲澤順二

連絡先： 代表：011-611-2111

【平日】札幌医科大学 心臓血管外科教室（内線 33120）

【休日・夜間】5 階北病棟看護室（内線 33210）